

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 12 月 10 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470103585		
法人名	医療法人社団長寿会		
事業所名	グループホームはたのりハビリ		
所在地	広島市安芸区中野六丁目14-2 (電話)082-820-2112		
自己評価作成日	H23.11.22	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www18.ocn.ne.jp/seno0507/guru-pu.html">http://www18.ocn.ne.jp/seno0507/guru-pu.html</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然環境に恵まれ、落ち着いた暮らしを営まれているも、併設の老人保健施設との交わりで行動範囲を広めてよい刺激を受けるよう取り組んでいる。 家族会を年3回開き、家族との交流にも努めています。外出行事などでは家族も参加し入居者様にも喜んで頂いています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「万が一何があっても必ず支えますよ」と優しく囁かれているような安心の雰囲気が漂っているホームです。開設以来8年が経過し、当初は軽度で入所された方も年を重ねられADLの低下が顕著に表れています。「足が一番年を取られます」との職員の声がありましたが、其の低下を少しでも遅らせ、自力で歩行、自力での食事を維持されることを願って理事長の指揮のもと、併設老健の治療力、介護力をも利用されつつ管理者、職員協力体制で支援が行われています。又地域包括センターが主催される認知症への理解やケアの講師を担われる等の地域への働きかけにも努められています。環境面では国道に近い高台に位置しJR駅へも徒歩圏内の便利さと、瀬の川のせせらぎが近く、三方を小高い山に囲まれ、南向きの開放的な居室の窓から木々の織りなす四季折々の風景を眺められることも特徴の一つです。</p>
---

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>理念を寮母室や談話室に掲示し、月1回のミーティング時に確認の意味を含みよみあげを行い、実践につなげている。</p>	<p>理念は寮母室や談話室に掲示され、ミーティング時には唱和し、実践行動では共有されている。月一回のミーティング時なので暗気で唱和出来る職員が多少あるが、今後は全員で暗唱できるようにしたいとのホーム長の意向が述べられた。</p>	<p>今後は申し送り時にも唱和され、全員で暗唱されより一層実践につなげられることが期待されます。</p>
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地域の自治会によるとんどや盆踊り、亥の子祭りに参加させて頂いている。又、当法人主催の一大イベントの夏祭りにも地域の方を招待し交流を深めている。</p>	<p>地域自治会のとんどや盆踊り等季節の催しには何時も数人が参加されている。ホーム長が近隣に住まれ、地域の方々の顔見知りが多く平常の立ち寄りの声かけをされている。又地域包括センターの主催する地域福祉の会合にホーム長は講師として再三活動されている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>当法人の地域包括支援センターの主催する認知症セミナーで、認知症に対しての講演を行っている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度運営推進会議を行い、包括支援センター、民生委員、自治会長、家族の方と意見を交換し、サービス向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議には自治会長、利用者代表、家族代表、地域包括センター、民生委員等が常時出席され、時々消防署や母体法人の事務長の出席があり、利用者の現状や行事の報告等を行い、出席者より意見を頂きその後の支援に活かしている。</p>	<p>運営推進会議への参加を地域の派出署や社会福祉協議会、婦人会等へも呼びかけをされ、防犯や災害対策、ボランティア等の情報を広範囲に求められてより豊かな支援につなげられることが期待されます。</p>
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>年に2回安芸地区地域密着型サービス事業者交流会の集まりがあり、市役所の職員も参加され、ケアサービスの取組み等話し合いをする。</p>	<p>市役所も参加される、年2回の安芸地区地域密着型サービス事業者の交流会に出席し、意見交換をすることで、日常業務の疑問点を解決出来たり、他の事業所の取組みを参考にさせてもらう事もある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員の目が行き届かない場合や、徘徊の心配がある時以外は玄関も開放している。又身体拘束をしない方法での介護を学び実践している。</p>	<p>出来るだけ安全な歩行を介助しつつ、基本的には昼間は玄関の施錠は行っていない。但し職員の休憩時間等で見守りが手薄になる時や入居者に不穏行動が予測される時はやむを得ず施錠を行う事がある。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や、勉強会に参加しミーティング時に発表・報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	いつでも支援できるよう、勉強会や研修など参加し皆で共有する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、重要事項説明書と認知症対応型共同生活介護利用契約を読み上げながら説明し、一緒に確認する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に3回(3月、9月、12月)家族会を開き意見要望を聞いている。又運営推進会議で家族代表の方から意見を聞き運営に反映させている。	理事長も参加して、年3回家族会議が開かれ家族からの要望や意見を聞き取り、又運営推進会議で家族より出された意見などを反映させながらサービスの向上に努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1度の主任会議で、問題点や提案を出し合い、話し合いをし改善している。	各階のフロアリーダーが職員の意見をまとめ、ホーム長と協議して支援の実践につなげたり、休憩時間やホーム長が夜勤時に直接電話での意見があったりして、職員の自発的意見を有効に活用しながら運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年数、資格、勤務態度など考慮した給与体制になっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤、パートの区別なく研修や勉強会などに参加してもらい個々のレベルアップに努めています。また、資格取得にも積極的に取り組むよう促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	年に2回、安芸地区地域密着型サービス事業交流会に参加し、情報交換している。		

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	談話室ではコミュニケーションをとるよう心がけています。また相談ごとがある場合は、プライバシーを守る為寮母室で時間をかけてお話を着ています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用の契約の前にご家族に入居動機やご家族のご希望等を聞き、要望に沿えるよう努力することを理解していただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様に応じて、必要な支援を見極め対応している。(医療的な往診、精神的なデイサービス、会話、介護、リハビリ等)		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員という意識ではなく、服装、言葉遣いにおいても、家族という意識で接するよう気を配っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族には面会はもとより、各行事にも積極的に参加して頂くよう案内を出し、家族の交流の場を設けるとともに、家族のかたに綿密にコンタクトを取っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた思い出の品や写真家具などを持ってきていただき生活している。又友人や近所、親戚の方が面会に気安いよう大切にもてなすよう心がけています。	殆どの利用者が中野、瀬野、畑賀等近隣から入居されているので、面会者が多く、ホーム職員は親しみを持って受け入れ、訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が上手く共同生活を送れるよう、食卓の席等を配慮している。また利用者様同士が衝突した場合は、職員が迅速に対処しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、ご家族からの要望、相談があれば応じます。		

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけを行い拒否される場合は強要せず、本人の意思を大切にしている。	職員は3:1の割合で利用者に寄り添い、日常の会話から本人の意思を把握し、共有されている。手芸クラブや習字クラブ、カラオケ、外出支援等選択の範囲を広げながら意向を聞き取り、可能な限り実践支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の生活環境を、フェイスシートにより情報を共有し、これまでの暮らしを職員全員が把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様一人一人の行動や心身状態等を日誌に記録しているので、全職員が暮らしの現状を把握できる。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が、本人や他の職員、ご家族と話し合い、本人の現状にあった介護計画を立てている。	担当職員が把握した日常の情報をフロアリーダーと協議し素案が作られ本人や家族の意見が組み込まれ、作成担当者が現状に合った介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の行動や心身状態等を、それぞれ日誌に記録し、全職員が暮らしの現状を把握した上で、ケアプランの見直しの必要性等をミーティングなどで話し合っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望等にこたえる為、面会時間、往診、受診、外泊、外出など可能な範囲で対応いたします。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、自治会長、地域包括支援センターの方の意見や協力を参考に、地域の行事に参加したりすることで、利用者様一人ひとりが安全で豊かな生活がめめるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、ご家族の了承のもと協力医療機関などの受診又は往診を行って健康管理に努めている。又他の病院の受診が必要な場合は紹介状を持って家族と共に受診していただいている。	殆どの利用者のかかりつけ医は母体法人の医師(理事長)が担当されて、2週間に1回の往診が行われ健康管理が行き届いている。又緊急時には即時に往診をされているので利用者や家族は安心感を持たれている。	

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当施設には看護職員がいないので、利用者様の様態に不振がある時は、併設の老健施設の看護職員につど連絡し指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が入院先に出向き様子を伺っている。退院時にも病院との連携をとりながら、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、終末期の家族と本人の希望を聞き、要望通りに対処している。当施設で緩和ケアを行う事になった場合は、家族、かかりつけ医、看護師との連携を密に職員の看護の研修も行っている。	「生涯にわたって自分らしく暮らす事が出来る終の棲家です」とホームの方針で示されています。入居時に本人や家族と十分に話し合いをして方針を聞き取り、要望通りに対処できるよう医療、看護、介護の連携を整えている。県病院の看護師を招いて、看とりにあたる為の職員研修を行ったり、職員の精神的フォローにも今後も取り組んでゆくとの方針が述べられた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人勉強会や施設内勉強会などで、応急手当や初期対応について備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行っている。	隣接されているショートステイの施設と合同で、消防署より2台の消防車と15名の署員の指導のもとに防災訓練を行い、避難方法、蘇生方法や被災者の運搬等の指導を受けた。	防災訓練を実行された後日、防災訓練の重要点の再確認や反省点等をミーティングや記録書等で職員間で共有されることが望まれます。運営推進会議でも訓練の状況を話題とされ、災害時近隣よりの支援が得られる仕組み作りがされることが期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	当施設の理念を反芻し、一人ひとりの人格を尊重する声かけや対応を心がけている。	不穏や幻覚を訴えられる利用者には納得が行くまで何回も職員が寄り添って、外出したり、和やかに話合いに応じたりして支援している。訪問時も、職員は日常的に穏やかに1人1人に笑顔で声掛けをしている情景が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行事参加や日常生活において、強要するでなく、まず本人の意思を確認し決定している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースや体調などを考慮し、本人の思いを優先してその日の行動を決定している。		

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一日にメリハリをつける為必ず、朝起きたら服を仕替えて身だしなみを整えます。その際も個々の能力に応じて必要な支援します。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配食された物を食すだけでなく、台拭きや食器洗い調理の手伝いなどできる範囲でお手伝いを促している。	開設当初は食事の準備や後片付け等される利用者が居られたが、年月の経過で食事の準備や片付け等が不可能になられ、ホームで利用者と共に調理を中止し、隣接の老健より運ばれ、配膳の手伝いを行って貰っている。月曜日をおやつ作りの日とし、利用者の要望されるおやつを職員の手助けて作られている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事内容は栄養士による献立を元に、一人ひとりに応じた形状、嗜好、量などを調整している。また、おやつも楽しみにされています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の人には声かけで誘導し、時々口腔チェックをしています。また支援が必要な人には一緒に口腔ケアを行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンのトイレ誘導表を作成している。おむつの必要な人に対しては、職員が勉強会などで知識を得て実践することでオムツを無駄にしないように心がけている。	1人1人の排泄パターンを示したトイレ誘導表をもとに、トイレ誘導をしている。体調の重篤な1人の方を除いて全員パンツ型を着用してもらい、立ち上がりで介助できるよう支援され、パンツの無駄使いにも、配慮がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	リハビリ体操や立ち上がり訓練などで適度な運動をしています。またお茶ゼリー1日2回と水分1500cc以上摂取を習慣化している。排便の管理をし、必要に応じて便秘薬や座薬で対処しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	要望に応じて毎日、一日おき、週2回の入浴を家族風呂にてひとりづつゆっくりと入浴を楽しんでいただいています。	入浴は要望に応じて何時でもできるように体制作りをして毎日や1日置きに入浴される方もあるが、入浴を忘れる方や、嫌がる方もあり、1週間に2回は必ず入浴してもらうように穏やかに説得して入浴を楽しめるよう工夫をすることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の見回りにより安全且つ安心して休眠していただいている。またナースコールや徘徊センサーにより異常に素早い認識ができるよう設備している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋の指示を全職員が把握し、服用していただいている。また服用の確認も怠らない。		

グループホームはたのりハビリ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	できる能力を発揮できるよう家事の役割分担をしている。その人の趣味に応じてクラブ活動の参加もしていた。外出行事、施設内行事を月に1回行って楽しんで頂き、日々も多様なレクリエーションを行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	元気な方は近所のお店まで行き買い物をする。また気分に応じて近くの散歩を楽しんだりもされる。日に1回は併設の老健施設まで屋外を通過して体操に出かける。	重篤な方を除いては、全員で隣接している老健施設まで屋外に出てゆっくり歩行してリハビリに通われることが1日の外気に触られる第一歩とされている。介護計画に添って職員の誘導によつての散歩や、要望に応じて近所のお店に買い物に行ったり、近くのお寺まで出掛けたり等職員の見守りの配置を考慮しながら出来るだけ外出支援が出来るようにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のある方は自分で管理されているが、自信のない方はお預かりして必要な際にお渡ししています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と連絡を取りたいときは、申し出により自由に電話できる体制にしています。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった壁飾りや、手作りの物、習字などを飾り生活空間に親しむよう努めています。	食堂を兼ねたリビングは採光も良く、窓越しに四季折々の自然の風景が眺められ、各階ともテーブルを囲んで利用者と職員がゆったりと語りあいを持たれている情景が見られた。広めの廊下の壁には利用者や職員の手による手芸作品が各部屋ごとに飾られ、施設の廊下と言うイメージを感じさせない様な華やいだ雰囲気があった。廊下やテラスに面した庭や畑にはその場所にふさわしい草花が配置されて植えられる等の優しい配慮が見受けら	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには、自分の決まった椅子がありいつでもその人が座れる場所を確保している。廊下や中庭にはベンチやソファを置き、気の合う人とおしゃべりができる環境に配慮しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた家具を持ち込んでいただき、使いやすいレイアウトで部屋を暮らしやすくしています。	自宅で愛用されていた椅子や机、タンス等を持ち込まれ、ベッドの立ち上がり位置やポータブルの配置等を考慮に入れながら、思い思いに配置されている。又習字や手芸等日常活動されている作品を賑やかに飾られて、楽しまれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には柔らかい板を使い、転倒時の衝撃が小さいように工夫している。各部屋のドアの模様にも個性をつけ自分の居室の目印にしています。		

グループホームはたのりハピリ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホームはたのりハピリ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームはたのリハビリ

作成日 平成 23年 11月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		終身施設である為、入所者の重度化が進みグループホームの本質である個々の能力を活かす場面が少なくなっている。	寝たきりにならないよう努力する	立ち上がり訓練や、リハビリ体操、日々の生活の刺激の活発化に取り組む。	
2		毎日のレクリエーションがマンネリ化して興味がなく、能力も低下してきている。	興味と楽しみを少しでも広げてもらいたい	各々をよく観察し、興味を示すことを見つけて、レクリエーションに取り入れる。	
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。